

静岡県立浜松商業高校調査研究部

地域創生SDGs!!浜松焼そばの軌跡

🌈 取組概要

●浜松の地域活性化のため、浜松サービスエリアで特産品を調査した結果、菓子類が多いことが判明しました。そこで、地産地消を意識した総菜系特産品の開発を決定し、トリイソースと協力して浜松焼そば向けの特製ソースが完成しました。

●2024年5月の浜松まつり最終日には、新浜松駅高架下の「はままちプラス」で高校生による商品の販売を行い、販売にあわせて「やさしい日本語」についての調査も実施しました。



🌈 はじめたきっかけ

新型コロナウイルスの流行による自粛期間により、学校や会社が休校・休業になりました。家にいる時間が増え、休校・休業の影響で外出する人が減少したことによる飲食業の衰退により、経済の衰え、使われずに余ってしまった食材たちが廃棄されているというニュースを見て、調査研究部である私たちは「地域の活性化どころではない!!」と感じ、今、抱えている問題解決に貢献するためにこの取り組みを始めました。

🌈 ポイント

浜松の活性化を目的に、高校生が浜松サービスエリアで調査を行い、売られているお土産のターゲットやニーズについて分析し、浜松らしい特産品を使用することで「浜松焼そば」のヒットにつなげました。その後も、若い女性をメインターゲットにした、「浜松ラーメン」を開発するなど、高校生のアイデアと市場の分析という商業高校の長所が活かされています。

🌈 地域課題と取組成果

「浜松焼そば」を開発する中で、浜松らしい特産品を使い、SDGsの達成にも寄与する「地産地消」を意識しています。浜松の経済成長に貢献するために取り組んだ結果、開発した「浜松焼そば」は4年間で累計販売数が10万食以上となり、浜松の活性化に貢献しています。取組を進める中で、新たな企業と協働し、廃棄される浜松産のレモンをつかった「君にれもん」を発売し、地産地消に加えて廃棄物の削減にも貢献しています。また、多文化共生にも取り組み始め、「やさしい日本語」の普及活動など「人や国の不平等をなくそう」の達成に向けた活動もしています。また、こうした活動を通じて、さまざまな課題にも気づくことができ、新たな問題解決への一歩を踏み出すきっかけとなりました。

●取組形態 部活動
●発足年 2016年

●部員数 46名
●HP URL <https://www.edu.pref.shizuoka.jp/hamamatsu-ch/>

●入部のきっかけを教えてください。

商品開発という、ほかの部活にはない特別な活動に興味を持って入部しました。自分たちのアイデアが形になるので、すごくワクワクします。

●これまで先輩たちが、いろいろな商品を開発してきたのですね。

「浜松焼そば」はトリイソースさん、「浜松ラーメン」は加藤醤油さんと三ヶ日町農業協同組合（JAみっかび）と共同開発しました。浜松産レモンを使ったフィナンシェ「君にれもん」は春華堂さんとコラボしました。これらの商品は、浜松駅や浜名湖サービスエリアをはじめ、文化祭や吹奏楽の定期演奏会、ザザシティで開催される軽トラ市などのイベントでも販売しています。販売の場には僕たちも立って、お客さんと直接お話しします。



●1年ほど活動をしてきて、どのようなことが印象に残っていますか？

やっぱり販売です。普段はなかなかできない経験ですし、先輩たちが作った商品を直接お客さんに届けられるのがすごく新鮮でした。

2024年12月に参加した「浜松市地方創生SDGsコンテスト」が印象的でした。僕たち1年生が2、3年生の取組を紹介しましたが、発表を通じて先輩たちがどのような商品を開発し、それが浜松にどう影響を与えてきたのかを知ることができ、自分たちの活動の方向性を考える良い刺激になりました。



●商品開発をする中で、SDGsは意識していますか？

いきなり最初から「SDGsを達成しよう」と始めているわけではありません。素材を選んだり、地元企業と協力したりするうちに、SDGsにつながっていくという感じです。「浜松焼そば」なら、ゴール8「働きがいも経済成長も」にある「産業の多様化や技術向上、イノベーションを通じて、より高いレベルの経済生産性の達成」に貢献していると思います。

「君にれもん」に使っているレモンは、もともと廃棄されるレモンでした。そのレモンの加工を障がいのある方をお願いしたと聞きました。さらに、加工の仕事は、忙しい時期と暇な時期の差が大きく、「君にれもん」の生産によって仕事の偏りも平準化したそうです。浜松産のレモンを浜松で加工・生産しているという、地元のつながりもSDGsにしっかり貢献していると思います。

●プロジェクトはどのように進めていますか？

まずは個人で浜松の課題を調べて発表し、方向性が似ている人とグループを組んで進めていくことが多いです。テーマとしては、音楽、農業、子どもの遊び場、ものづくり、食品ロスなどが挙がっています。

現状を知ることが大事なので、調査をしたり、お話を聞いたりして、そのうえで「どうしたらいいか」をみんなで話し合いながら進めています。



●今後の展望を教えてください。

今はそれぞれ興味のあるテーマについてリサーチしている段階ですが、商業高校ならではの視点を生かし、大人とは違う高校生のアイデアで商品やサービスの企画・開発に携わっていきたいです。「これはいい商品!」「これはいいサービス!」と自信を持って言えるものを作り、それが地域の課題解決につながり、浜松で暮らす人に喜んでてもらえたらうれしいです。